

令和3年度 震災講話

2022.1.17

みなさんおはようございます。震災講話を始めます。

今から27年前の1995年1月17日朝5時46分、震度7の阪神淡路大震災が起きました。この地震で6434人が亡くなり、4万3792人が怪我をし、約25万の家が壊れました。

この学校でも当時中学部1年生の男子生徒（鳥越博之君）が自宅で亡くなりました。

地震は台風や大雨のように数日前から来ることを予想して避難準備をすることはできません。急に起こって、たくさんの人の命を奪い、家も道路も鉄道も何かもを破壊します。みなさんは急に住む家をなくしたらどうですか。水も電気もガスもない、食べるものも着るものもありません。そんな状況が27年前の今日、この神戸でも起こっていたのです。

阪神淡路大震災の後、日本に住む人の意識は変わったと思います。何かが抜け落ちたように、はしゃがなくなったし、良くも悪くも現実的になった気がします。

震災後のよい変化と言えば、ボランティアが定着したことだと思います。全国から神戸にもボランティアがやってきて、一緒に作業をしてくれたり、被災者に炊き出しでおにぎりや豚汁を作ってくれたりしました。今日の給食はそのおにぎりや豚汁が出ますから、当時の被災者のことを考えながら食べてください。

地震が起こらないようにすることはできません。私たちにできることは、阪神淡路大震災から学ぶということです。どうすれば被害を減らせるか、どうすれば助け合えるかを考えることです。

みなさんは、地震が起こったら、パニックにならず、机の下などに入って自分の身を守ること、速やかに避難することなどもう一度しっかりと思い出しておいてください。

それではこれから、犠牲になった方々に、黙祷を捧げたいと思います。黙祷と言ったら静かに目を閉じて、亡くなった方々のことを考えてください。「黙祷」
…（約 30 秒）…「なおいれ」

これで震災講話を終わります。